

「言語能力」育成状況の多面的測定 概要

1 測定状況

本研究では、N I N O認知能力検査と読書力診断検査を6月に、標準学力検査C R T／目標規準準拠検査を1月に、それぞれ実施した。これらは、次年度も同じ時期に実施し、経年比較で指導の有効性を検証する。

「言語能力」を統合して解決する問題は、国語科、社会科、算数科、理科の4教科に関する問題（言語能力に関する検査①）と、「言語能力」を総合的に見る問題（言語能力に関する検査②）の2種類で検査を行った。どちらも、アカデミック・ライティングで指導可能な言語能力を評価する視点で、独自に作成した問題である。なお、同検査は令和3年6月と令和4年2月に行っている。

保護者アンケートは、総合的な学習の時間に行っている「鯨っ子学習」が終わった学年から実施してきた。アカデミック・ライティングの取組が始まった9月以降、2月時点で「鯨っ子学習」が終わっている4・5年生分を載せている。

2 言語能力に関する検査①の検査形態について

言語能力に関する検査①は、問題提示と解答を「紙＋紙」「ICT＋紙」「ICT＋ICT」の3形態で行った。本校はGIGA school構想に基づき、一人一台の2in1パソコンを所持しており、令和3年5月から使用を始めてきた。同検査もこの端末を用いている。そのため、6月時点では操作に不慣れだった児童も、2月時点ではずいぶん慣れてきている。

ただし、1年生は2in1パソコンに触れる機会が少ないことから、本検査は「紙＋紙」のみで行っている。また、2・3年生もキーボード入力の指導・習得状況を鑑みて、「紙＋紙」と「ICT＋紙」の2種類のみで検査を実施した。

「ICT＋紙」は、紙媒体と同じ問題をそのままPDFにしたものを児童のパソコンに送付した。加えて「ICT＋ICT」の解答には、「Google forms」を利用した（図1）。「ICT＋ICT」で検査を行った児童には表示方法までは指示しておらず、画面を切り替えたり、画面を二つに分けて（図2）表示したりしていた。

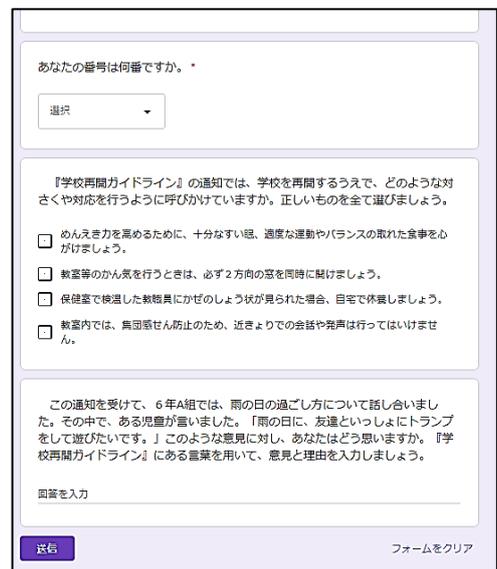


図1 「Google forms」解答画面

3 次頁からの見出し

- 1 言語能力に関する検査①の分析
- 2 言語能力に関する検査②の分析
- 3 「鯨っ子学習」保護者アンケートの結果と考察

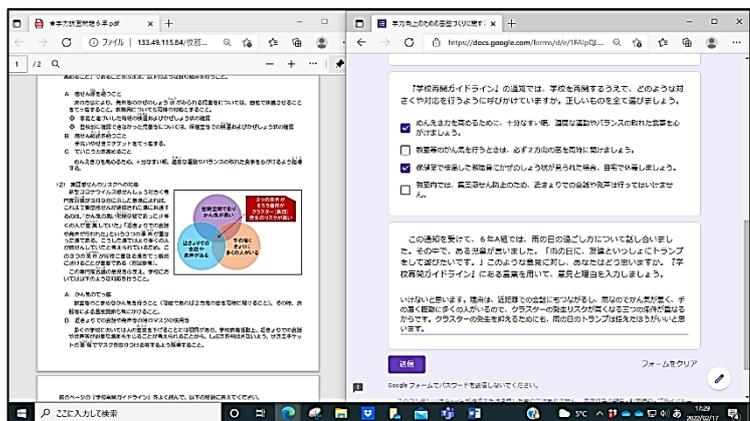


図2 「ICT＋ICT」による解答画面(例)

※言語能力に関する検査①②の問題は、著作権上、記載しない。